

愛隣館研修センターニュース

〒612-8141 京都市伏見区向島二ノ丸町 151 Tel:075-621-3849 Fax:075-621-1579
E-mail:airinday@sunny.ocn.ne.jp http://www.airinkan.net 振替:01020-5-39321
編集発行所:社会福祉法人イエス団 愛隣館研修センター 発行責任者:平田 義

101号

ほんまに今「平和」なんやろうか？

北朝鮮からのミサイルの恐怖。それに呼応するかの日米韓の軍事演習。一色触発の様相が報道されています。日本の平和を守るために、軍事力を増強することが「平和」を造ることになるのでしょうか？今号では、沖縄で辺野古新基地建設の阻止行動に身を挺して活動されてる金井創さんから「平和」を造る意味を寄稿していただきました。ご一読くださり今一度「平和」とは何かを共に考えて、私たちが「平和」を造り出す歩みに踏み出していただければと願っております。(平田義)

「平和を造る」

辺野古新基地建設阻止海上行動船長
日本基督教団佐敷教会牧師
金井創

平和を守る、平和を造る。どちらの表現が私たちの身近なものでしょうか、そしてこの二つの表現は内容が違っているのでしょうか。私は違っていると思っています。平和を守ると言った時、今生きている社会は平和であることが前提とされます。だからその平和を守るためには戦争も必要だという考え方も導かれます。人類の歴史上、実に多くの戦争が「平和を守る」ためにおこされてきました。つまり平和を守るという発想からは戦争を防ぐことができないのです。

一方、平和を造るということは、今生きている社会は平和ではないという認識が出发点です。平和ではない所に平和を造っていくのですから、その道そのものが平和的でなければ不可能です。平和のない所に暴力、武力で平和は造れないのです。

では私たちが暮らすこの日本の社会は平和なんでしょうか。たしかに1945年の敗戦以来、国土が戦場になるような戦争は経験していません。その意味では平和が続いてきたと言えるかもしれません。

ノルウェーの社会学者ヨハン・ガルトゥングという人が平和をこう定義しました。一つは消極的平和、すなわち戦争がないこと。もう一つは積極的平和、これは差別や抑圧、搾取がないこと。この定義によれば戦争をしていないだけでは平和とは言えない、弱い立場に追いやられている人たちの人権が大事にされ保障されて初めて平和な社会と言えるのだということになります。この定義はいまや世界的に標準とされてきていることから、ガルトゥングのことを

「平和学の父」と言ったりします。

しかし、この平和の定義は2千年以上も前に聖書で語られていることでもあります。たとえば旧約聖書の詩編には「正義と平和は口づけし」とあり、イザヤ書には「正義が造り出すものは平和」とも書かれています。つまり正義と平和は切り離せない、正義のない所に平和はないという思想です。ではその正義とは何でしょうか。エレミヤ書にはこうあります、「正義と恵みの業を行い、搾取されている者を虐げる者の手から救え。寄留の外国人、孤児、寡婦を苦しめ、虐げてはならない。またこの地で、無実の人の血を流してはならない。」正義とは搾取されている人を救い、差別と抑圧にさらされている人の人権を回復すること、そのような恵みの業を行なうことだと告げています。まさにガルトゥングの言う積極的平和です。

聖書からもガルトゥングからも明らかなことは、この日本は平和な国などではないということです。私たちの身の回りには様々な形での差別があります。いじめも抑圧も搾取もあります。その差別が最も大規模にそして構造的になされているのが沖縄です。

国土面積比で0.6%しかない沖縄に在日米軍基地の70%が集中しています。沖縄の基地に所属する米軍の軍用機は1年に1機以上墜落しています。2012年に配備された海兵隊の垂直離着陸機オスプレイは24機中、もう2機が墜落しました。このオスプレイ配備に対しては沖縄の41あるすべての市町村議会で反対決議がなされたにもかかわらず聞き入れられませんでした。県民の8割以上が反対している辺野古新基地建設はいま現在も国が強行しています。世界的に貴重な海が破壊されています。日本の60倍も生物多様性に富んだ海に連日石が投下され、コンクリートで覆われていっています。

新基地建設に抗議し、反対の意志を行動に表していくことは、この大きな差別を正す、まさに平和を造る働きです。だからこそ非暴力なのです。つい最近、この非暴力の取り組みが国際的に認められる出来事がありました。

ドイツ・ベルリンに本部を置く国際平和団体「国際平和ビューロー」は11月24日、今年のショーン・マクブライド平和賞の授賞式を行い、沖縄の新基地建設に反対する政党や団体でつくる「オール沖縄会議」に授与しました。国際平和ビューローでは、オール沖縄会議の活動を「不撓不屈の非暴力闘争」と称賛して満場一致で授賞を決めたそうです。

この平和賞は、国際的な人権組織アムネスティ・インターナショナルの創立に関わり、長く代表も務めた故ショーン・マクブライド氏の功績をたたえて1992年に創設され、平和や軍縮などの分野で活躍した個人・団体に贈られてきました。日本の団体としてはこれまでに日本原水爆被害者団体協議会(2003年)、平和市長会議(現・平和首長会議2006年)が受賞しています。

また、日米両政府が強行している米軍新基地建設に反対し、海上やキャンプ・シュワブゲート前での抗議・監視行動に取り組む「ヘリ基地反対協」に韓国のカトリック団体の「正義平和賞」受賞が決まりました。これは1970年代の韓国民主化運動にかかわったカトリッ

ク司教、故・池学淳(チ・ハクスン)氏をたたえ1997年に設立された財団法人「チ・ハクスン正義平和基金」の第21回チ・ハクスン正義平和賞です。同賞は国家の民主化と改革、人類の平和、国際平和秩序のための連帯活動の先頭に立ってきた個人や団体に与えられる賞で、日本の団体が受賞するのは初めてのことです。

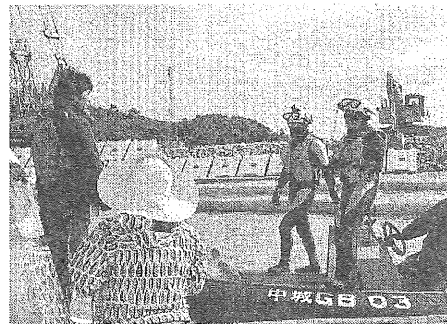
同基金は11月20日、ヘリ基地反対協に対し「貴団体が、辺野古海上基地の建設に抵抗し、海上阻止行動を20年間持続しており、いかなる厳しい状況にも沖縄の平和、自然、自尊心を守るといふ熱意に変わりがない事実に感銘を受けました。これに対する感謝の気持ちでこの賞を授与したいと思ひます」との授賞理由をメールで通知してきました。授賞式は年明け1月に訪問団が来沖して辺野古で実施される予定です。

このようにダブル受賞と言ってもよいタイミングで二つの国際的な平和賞をいただいたことは、沖縄における非暴力抵抗の取り組みを世界が認め評価したということだと思ひます。違法な工事によって海が破壊され続けているこの辺野古で、そして有無を言わさぬ権力が支配しつつある日本で、弱い者、小さい者の人権を守るといふ恵みの業によって平和は実現されることをそれぞれの場で創造していきましょう。

カヌーに飛びついて拘束する海保 →



工事現場への接近すら妨げる海保 ←



「沖縄への暴力」

—沖縄研修に参加して—

太田正人

横綱日馬富士が引退を余儀なくされた。理由はどうであれ、暴力はNOという大前提は横綱であろうと許されるものではなかった。アメリカではハリウッドの大物プロデューサーのセクハラ疑惑から各界へ拡がりを見せている。これもセクハラという暴力に対して、同じくNOが突き付けられた結果である。

暴力と聞いてどんな状況を想像するだろうか。手元の辞書を引いてみた。「たいした理由も無いのに人を殴ったり、反対意見をおおぜいの力で抑圧したりするような、乱暴な行為(新明解国語辞典 第七版)」とある。人によって抱くイメージは異なるかも知れないが、共通してそこにあるのは「許されない行為。自分は受けたくないし、したくない」と誰もが思うのではないだろうか。ところが、沖縄ではまさしく基地反対の声や行動に対して力で抑圧するような暴力がおこなわれている。しかし、それが許されている現状がある。

沖縄では戦後70年以上たった今もずっと続いている。日本からの暴力である。沖縄には日本国内にある米軍専用施設の70.4%が沖縄だけに集中している。全国から機動隊が送り込まれ、大阪府警からの「土人発言」があった高江では住民の反対を押し切り強引にヘリパッドが建設された。辺野古では、海を埋め立て新たな恒久的な基地を作ろうとしている。基地建設だけではない。

1995年の米海兵隊員らによる12歳の女子小学生拉致集団暴行事件。記憶に新しい昨年4月の元米海兵隊員で軍属による女性への暴行殺害事件。2004年の沖縄国際大学へのCH-53Dヘリコプター墜落。今年の10月にも同型機が高江で墜落。さらに、12月7日には同じく同型機からと思われる部品が保育園に落ちる。それから一週間も経たない12月13日の午前10時10分ごろ、小学校のグラウンドに同型機の重さ7.7kgの窓が落下。その時、グラウンドには約60人の子どもたちが体育の授業中だった。一番近くに子どもまでたった10メートルの距離だった。粉じんが舞い、校舎へ逃げ込む子どもたち。避難した後に泣き出す子もいた。表に出てきているものはほんの一部にすぎない。

これは仕方がないことなのか？これらの暴力は基地がなければ起こらなかったはずだ。

「基地によって沖縄経済が成り立っている。沖縄は基地で飯を食っている」というデマを今もなお耳にする。基地関連収入が沖縄経済に占める割合は一体どれぐらいなのか？ちょっと想像してみてください。実際の数値を知ると「え!？」と驚いてしまうと思う。たったの約5%である。沖縄復帰の1972年の時でさえ15%程度だった。那覇市おもろまちは、1987年に返還される以前は米軍専用住宅地だった。そこで働いていた日本人は約900人程度で、主な仕事はハウスキーパーだった。現在は、大型ショッピングセンターや総合運動公園があり、数万人の雇用を生んでいる。もはや基地は経済発展の阻害要因でしかない。

そもそもなぜ米軍専用施設の70.4%が沖縄だけに集中しているのか？1950年代、海兵隊は本州の山梨、静岡、岐阜、奈良に配備されていた。しかし各地で基地反対運動が盛んになる。特に山梨では女性たちが米軍の車両の前に立ちふさがったり、砲弾演習の着弾地に潜入して訓練を阻止する等の住民の反対運動を日本政府と米国防務省は無視することができず、海兵隊は追い出された。一体どこに行ったのか？

言うまでもなく沖縄だった。日本は沖縄に基地を押し付けた。本州では反対運動が美談として語られるが、沖縄では反対運動は沖縄のワガママだと言われる。したがって沖縄の基地にまつわる様々な問題は決して沖縄だけの問題ではない。

自分も含めて我々は沖縄のことをちゃんとわかっているのだろうか。「大変だなあ」「仕方がない」と、どこか他人事になってやしないか。沖縄から京都に戻ると、いつの間にか日常に追われ、距離以上に沖縄を遠く感じてしまう。本当に自分たちの問題としてどこまで向き合っているのか。沖縄には、『肝苦りさ(チムグリサ)』という言葉がある。他者の痛み、苦しみは、自分の内蔵がかき回されているような激痛であり、苦しみを感じる。人の苦しみや悲しみは、決して他人事ではなく、その痛み苦しみが我が事として感じる。そのような意味である。その感覚が錆びつかないように自分の今できることをしていきたい。

「みんなで考えよう HIV・セクシュアリティ・薬物依存」

福野由記

対人援助の現場で差別や偏見をなくすために何ができるのでしょうか？

医療や教育の実践を通し先駆的な取り組みされている方々からお話をお聞きし、所属する現場で具体的に何ができるのかを考え意見交換を行い学びを深めました。

「みんなで考えよう施設におけるHIV」(2017年9月2日)では、AIDS(後天性免疫不全症候群)の対応は肝炎と同じで、感染症・スタンダードプリコーション(すべての人がなにかの病原体をもっていると仮定して対応する予防法)の正しい知識を持つことが重要であり、ケアの現場で起こる疑問や不安はエイズ拠点病院等の専門機関に相談できることを知りました。また松浦基夫先生(堺市立総合医療センター腎代謝免疫内科部長 NPO 法人 CHARM 理事長)による模擬面接では、HIV検査の結果と併せて治療方法や医療費の負担軽減等の公的な制度、これからの生活に必要な事柄について正しい情報を伝えることで、患者がスティグマを感じずに安心して治療が継続できることを学びました。

「みんなで考えよう施設におけるセクシュアリティ」(9月30日)では「性の権利宣言」に基づき人権としての性、「男・女」だけではない多様な性のありかたについて学び、相手を尊重するための配慮や工夫について考えました。

「みんなで考えよう依存症」(10月7日)では、依存症は差別や虐待などの辛い状況への自己治療の手段にのめり込みすぎて生活に不具合が生じた状態であり、誰にでも起こる可能性があること、仲間とのつながりや人の役に立った経験などによって癒されていくことを知りました。

ご自身の体験を語ってくださったYさん、Oさん。お二人のお話から、いろいろな気づきを得ることができました。本当にありがとうございます。

当事者の方にこれまでどんな工夫をされてきたのか、これからどのような生活したいのかお聞きし、一緒にどのような工夫や配慮ができるのかを話し合うことの重要性を学びました。

■ 豊島神愛館がリニューアルします！

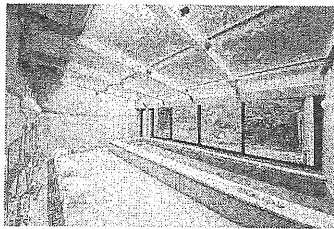
豊島神愛館は香川県の瀬戸内の離島「豊島」にあります。賀川豊彦氏の精神を今に残し、人情にあふれ人が豊かに暮らしています。今ではお隣の直島とならんでアートの島としても知られています。そんな離島に愛隣館の仲間でもあるイエス団豊島神愛館がありました。2015年まで戦後間もないころから続く香川県唯一の乳児院でした。

離島ゆえの課題、建物の老朽化、子どもの置かれている社会状況の変化やそれに対する乳児院の使命など考え、その機能を香川県坂出市に移転することになりました。

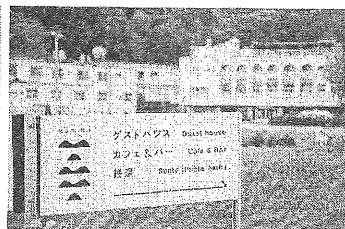
建物だけが残されて2年…。

豊島神愛館跡地利用も含め豊島の福祉を考えるために、島内外の多くの人々が議論を交わし、奔走。そしてついに2017年8月、建物の一部を活用して豊島ゲストハウスmammaとしてリニューアルしました！

どんな存在も、ありのまま、
母のような愛をもって受け容れあいたい。
わたしたちがこれから新しくつくっていく場を
「mamma (マンマ)」と名付けました。(mammaHPより)



mamma大浴場↑



mamma案内板↑

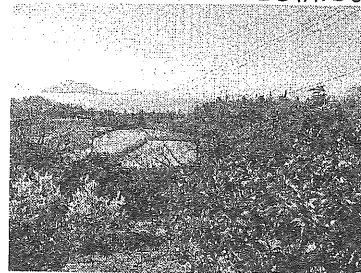
mammaは宿と銭湯とカフェレストランです。観光だけでなく、島の方も銭湯やカフェレストランを利用されています。豊島神愛館が活動していた当時のお話などたくさん聞かせていただきました。モノ・コト・ヒトが交わり新たな出会いの場となっています。運営は岡山県の林業が盛んな西粟倉村の村楽エナジー株式会社に依頼しました。このことも新たなつながりとなっています。多様な人が集まり、これからの島がさらに盛り上げてゆくこと間違いなしです。豊島には賀川豊彦の歴史のみならず、アート、自然などなど多様な顔を持っています。

そういえば、もうみかんの季節ですね。みかんが島中になっています。もうそれだけでうれしくなります。

先日から豊島のみかん農園の方のお手伝いを始めました。

今年、その農園の方が高齢化で継続の危機が訪れました。60年以上も続く島に愛された豊島みかん。そんな中、大切な豊島ブランドを残したいという島の有志が集まってきました。農園の方の指示を仰ぎながら、収穫が始まっています。形や味は不揃いですが、親しみやすくも深みのある味がします。

まだまだ、豊島には大切にされているモノ、コト、ヒトがたくさんあります。ぜひ会いに来てください！(横山利明)



↑みかん農園

<p>歪んだ心を治してください 吐き出させてください 本能の血を剥がしてください 心の癒を剥がしてください 誰かの口を封じているのです わたしの口を封じているのです 心から言いたい事も 言えなくなりました だから言いたい事 ひねくれたのです 心が歪んだのです 素直な心 魂に触れる</p>	<p>柏木正行さんの 魂に触れる</p>
--	--------------------------

- ### 2017年4-11月の行事報告
- 4/3-8 お花見週間
 - 5/28 にっこりフェスティバル
 - 6/22-26 京都ブロック沖縄研修
 - 7/9.13.23 喀痰吸引第3号研修
 - 7/27 『遊隣』海企画
 - 8/03 『遊隣』クッキング企画
 - 8/15-16 『遊隣』キャンプ
 - 8/20-21 向島伝道所キャンプ
 - 9/04-08 BBQ Week
 - 9/20 法人京都ブロック学習会(金井創さん)
 - 10/5-6 デイ・シサム一泊旅行 in 姫路
 - 10/25-26 デイ・シサム一泊旅行 in 姫路

2017年 クリスマス献金のお願い

皆様方のご理解とご支援によって支えられ、活動を続けられますこと、心より感謝します。今年度もクリスマス献金にご協力頂きますよう、お願いを申し上げます。

《クリスマス献金・要項》

目的：障がい児・者とその家族とが地域で安心して暮らすことができる為に愛隣館研修センターの今後の活動を支援する

目標金額：3,000,000円
郵便振替：01020-5-39321
口座名：社会福祉法人イエス団愛隣館研修センター

★お知らせ★
▽愛隣館研修センターは、12/30-1/3まで休館日とさせていただきます。

★編集後記★
▽101号のご意見ご感想お聴かせ下さい。(さ)

▽2017年も終わろうとしています▽衆議院選挙があり、改憲を目論む与党が圧勝しました▽安保法制、共謀罪などを強行採決してきた政権が居座っています▽「平和」をつくりだすための要石である憲法も「改悪」されかねない状況です▽命が大切にされる社会をつくりだすために、私たち一人一人の行動が問われています。(ひ)